

# 木材統計調査について

統計委員会基本計画部会資料

平成27年 2月19日

**農林水産省**

# 目次

---

## 1 木材の需給構造及び調査体系

- (1) 木材の需給構造
- (2) 調査体系
- (3) 調査対象
- (4) 調査結果の利活用事例
- (5) 調査の沿革

## 2 木材の加工・流通の構造

## 3 集成材の生産量

## 4 調査対象工場の規模等について

## 5 オンライン調査

(参考1) 標本の抽出

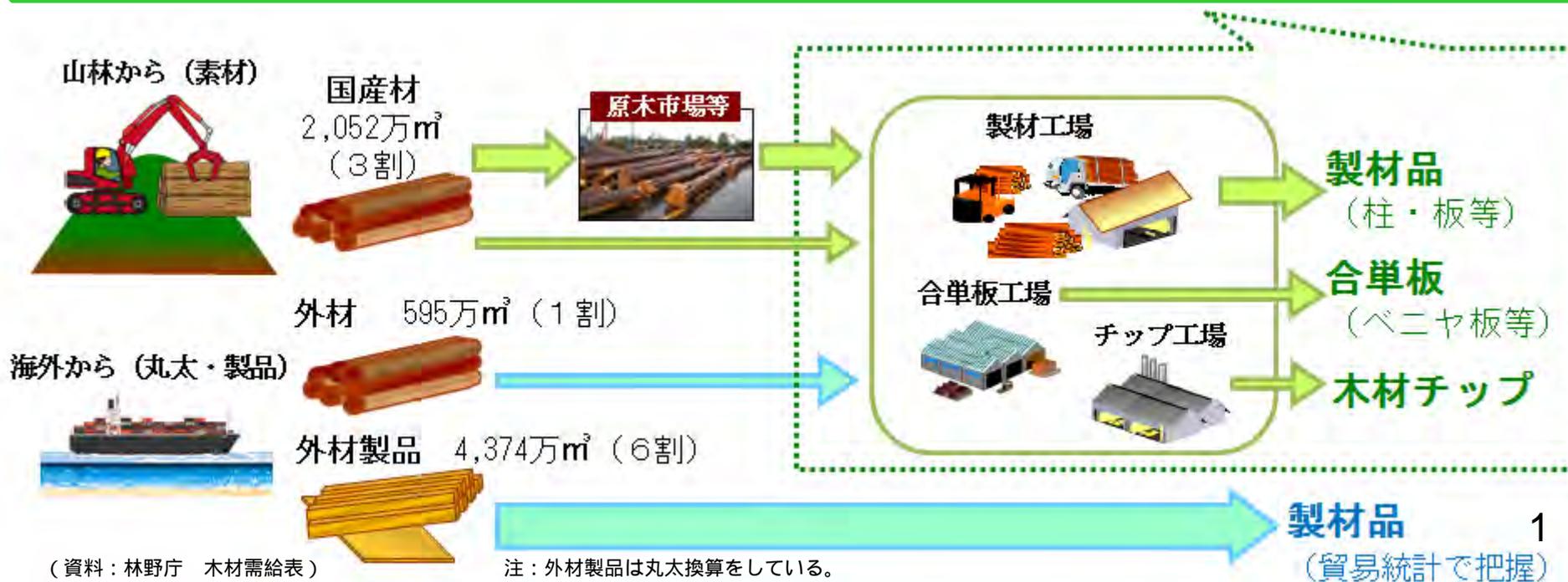
(参考2) 集成材

# 1 木材の需給構造及び調査体系

## (1) 木材の需給構造

- 我が国の森林面積は2,500万ha（国土の3分の2）、森林資源の蓄積量は毎年約1億 $m^3$ 増加し、現在49億 $m^3$ 。
- 木材需要量のうち、製材用が39%、合板用が15%、パルプ・チップ用が41%。
- 伐採・搬出された木材は、原木市場等を経て6割は製材工場、1割は合板工場、3割がチップ工場に供給され製品に加工。

木材統計の調査対象（素材別入荷量、製品別生産量、製品別出荷量、製品別在庫量）



## ( 2 ) 調査体系

### < 基幹統計調査 >

#### 木材統計調査



丸太（素材） 製材品（柱、板等）



木材チップ（パルプ用等）

#### 基礎調査（年次調査）

- ・製材工場等に入荷した丸太の樹種、入荷都道府県を調査
- ・木材製品（製材品、合板、木材チップ等）の生産量等を調査

#### 月別調査

#### 製材月別調査

- ・製材品の生産量、出荷量、在庫量等を調査

#### 合単板月別調査

- ・合板の生産量、出荷量、在庫量等を調査

### < 一般統計調査 >

#### 木材流通統計調査

#### 木材価格統計調査（月別調査）

#### 素材・木材チップ価格調査

丸太の購入価格、木材チップの工場渡し価格

#### 木材製品卸売価格調査

木材製品の販売価格

#### 木材流通構造調査（5年周期）

- ・丸太及び木材製品の入荷先別入荷量、出荷先別出荷量等を把握し、木材の流通ルートを把握する。

# ( 3 ) 調査対象

調査	木材統計調査（基幹統計調査）			木材流通統計調査（一般統計調査）		
	基礎調査 （年次調査）	月別調査（毎月調査）		木材価格統計調査（毎月調査）		木材流通 構造調査 （5年周期）
		製材 月別調査	合単板 月別調査	素材・木材 チップ価格調査	木材製品 卸売価格調査	
目的	素材生産並びに木材製品の生産及び出荷等に関する実態を明らかにし、林業行政の基礎資料を整備すること			木材の価格水準及びその変動並びに木材の流通構造を的確に把握し、木材の需給及び価格の安定等流通改善対策、木材産業の合理化対策、木材流通構造改善施策等の推進に資すること		
標本 規模	平成25年	平成26年12月現在		平成26年12月現在		平成23年
	製材工場 3,394工場	製材工場 1,172工場	合単板工場 75工場	製材工場、 合単板工場、 木材チップ工場 295工場	流通業者 64業者	製材工場、 合単板工場、 木材チップ工場等 1,606工場
	合単板工場 145工場					流通業者 1,495業者
木材チップ工場 977工場						
調査 方法	オンライン、 郵送又は調査員	オンライン 又は郵送		オンライン、郵送又はFAX （市場化テストで実施）		郵送又は 調査員

## ( 4 ) 調査結果の利活用事例

---

「森林・林業基本計画」（平成23年7月26日閣議決定）  
における「木材総需要量の見通しと国産材利用の目標」につ  
いて、林産物の供給及び利用の目標設定

「木材需給表」（林野庁）の作成に係る資料

林野庁による木材需給会議における「主要木材の需給見通  
し」の作成

国民経済計算における四半期別GDP速報（QE）の供給  
側推計の「林業」及び「製材・木製品」の推計、並びに年次  
推計の財貨・サービスの供給及び需要の農水産物（林産物）  
の産出額の推計

産業連関表の内生部門における林業部門等の推計

鉱工業指数の生産・出荷・在庫指数の算出

## ( 5 ) 調査の沿革

---

- 昭和28年（1953年） 「製材統計調査（指定統計調査）」として調査実施  
29年（1954年） 製材以外を「木材統計調査（承認統計調査）」として開始
- 平成12年（2000年） 「製材統計調査」の基礎調査を調査員調査化及び標本工場調査を郵送調査化
- 13年（2001年） 製材統計調査基礎調査を標本調査化
- 17年（2005年） 調査体系の整理  
[統計審議会] 調査範囲、調査方法の変更  
調査項目の追加・削除  
追加：従業者数の男女別 等  
削除：製材品の出荷先出荷量を都道府県別から自  
県・他県に縮減  
木材チップの出荷先（都道府県）別出荷量  
の削除 等
- 用語の統一  
公表日の早期化
- 19年（2007年） オンライン調査を導入

# 2 木材の加工・流通の構造



## < 調査対象 >

### 1 基礎調査（年次調査）

製材用動力の出力数が7.5kW以上の製材工場（図中の ）。以下「製材工場」という。）、木材チップ工場（図中の ）及び単板又は合板を生産している事業所（図中の ）。以下「合単板工場」という。）

### 2 製材月別調査（毎月調査）

製材工場（図中の ）

### 3 合単板月別調査（毎月調査）

合単板工場（図中の ）

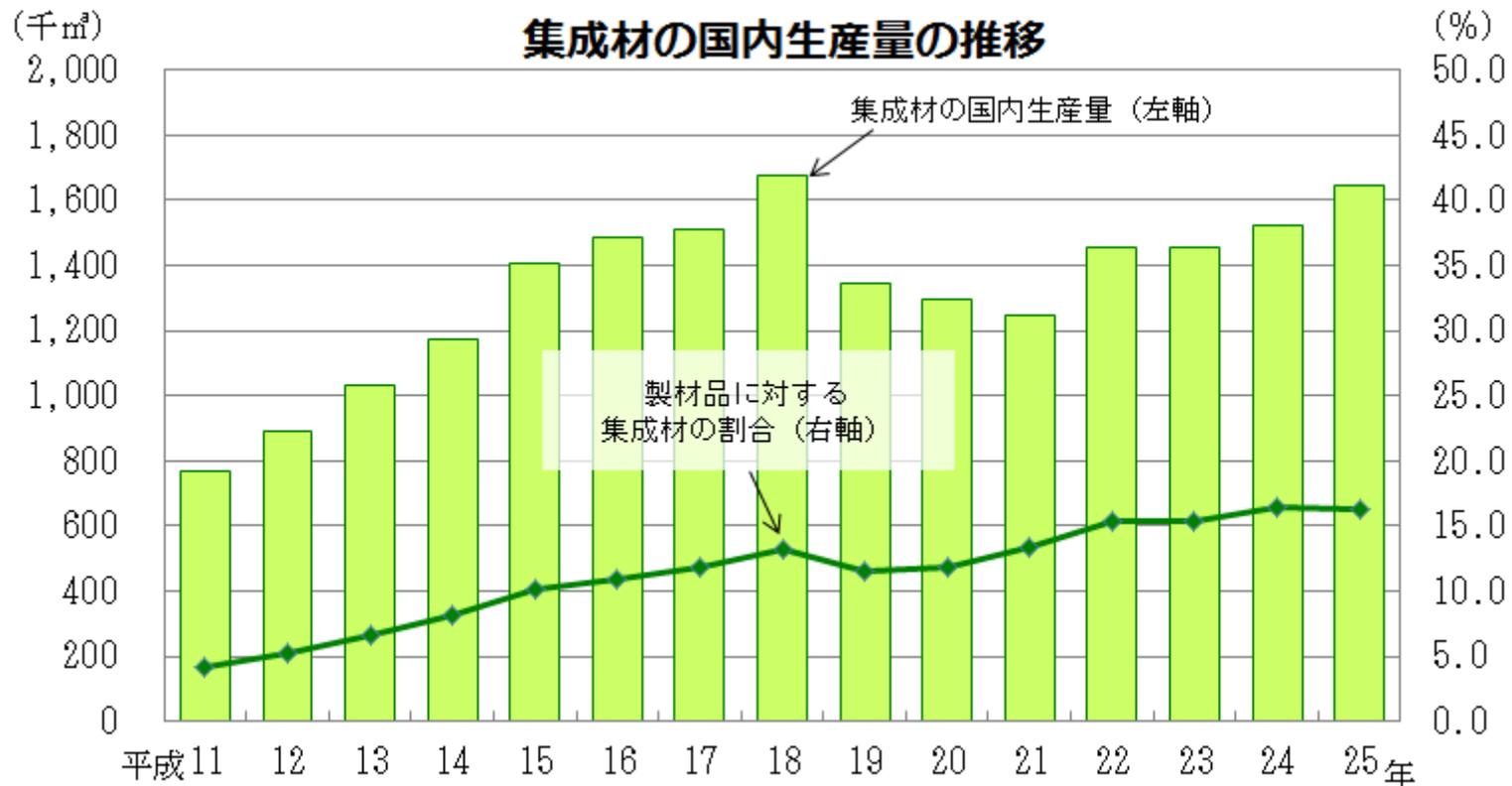
木材価格統計調査及び木材流通構造統計調査（いずれも一般統計）における調査対象は、図中の ~ 。

山から生産される丸太のことを「原木」または「素材」という。

（資料：林野庁 森林・林業・木材産業の現状と課題）

### 3 集成材の生産量

- 集成材<sup>注</sup>の出荷量等については、木材流通構造統計調査（周期年調査）で把握
- 集成材の国内生産量は、集成材工場の業界団体において毎年把握
- 集成材の国内生産量は、平成18年までは増加傾向で推移したが、その後大きく減少し、近年は微増傾向

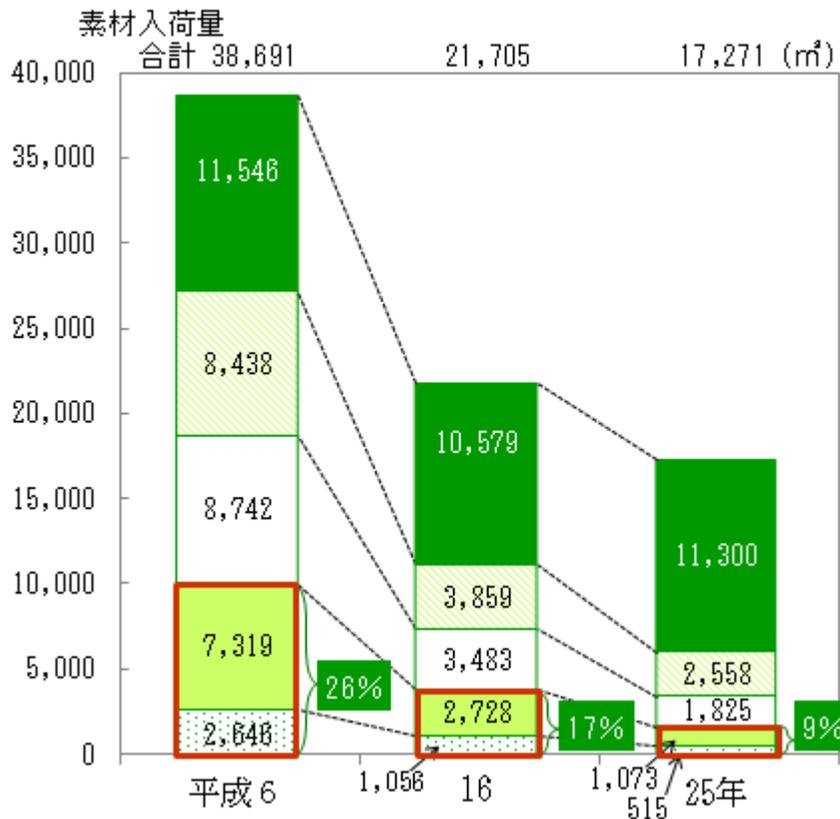


注：「集成材」とは、ひき板等を繊維方向に平行に集成接着した木材で、寸法安定性に優れている。  
詳細は11ページ（参考2）を参照。

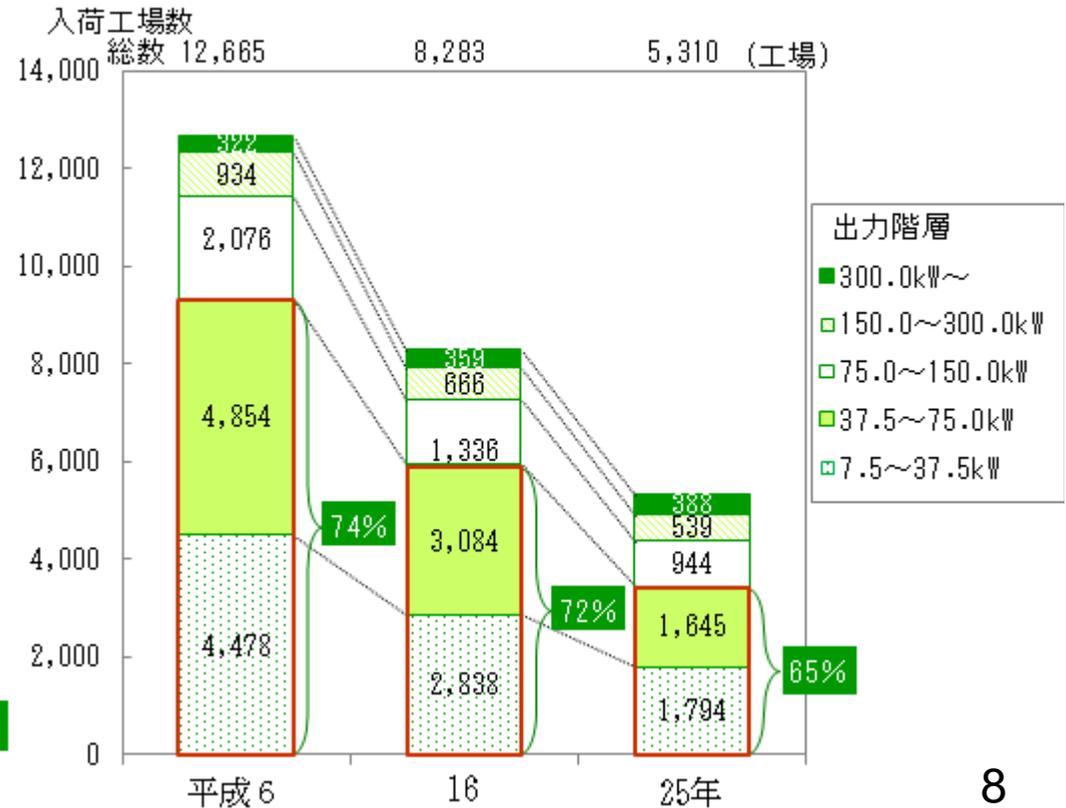
# 4 調査対象工場の規模等について

- 製材用動力の出力数75.0kW未満の工場における素材入荷量の割合は、9%に低下
  - 一方、国産材を入荷している製材用動力の出力数75.0kW未満の工場数の割合は、65%を占める。
- 仮に、下限規模を75.0kWから150.0kWへ引き上げると、国産材の入荷工場のうち8割以上が標本階層となり、国産材の把握に影響が出る恐れ

出力階層別素材入荷量と割合の推移



出力階層別国産材の入荷工場数と割合の推移



(資料：木材需給報告書)

# 5 オンライン調査

## (1) オンライン回収率

調査名・調査対象		オンライン回収率	オンライン回答が進まない理由
基礎調査	(調査対象)	製材工場	1.6%
		木材チップ工場	3.4%
		合単板工場	3.6%
月別調査	製材月別調査	5.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査対象は小規模な工場が多く(製材工場：従業者数4人以下の工場が約7割)、パソコンやインターネット環境が整っていない。</li> <li>・ 会社内のネットワークがインターネットに接続できない。</li> <li>・ 操作ができる者がいない。</li> <li>・ 設定や操作が複雑で時間がかかる。</li> <li>・ パスワード(確認コード8文字以上)の設定処理が面倒。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など・・・</p>
	合単板月別調査	12.0%	

## (2) オンライン回答率拡大に向けた検討内容

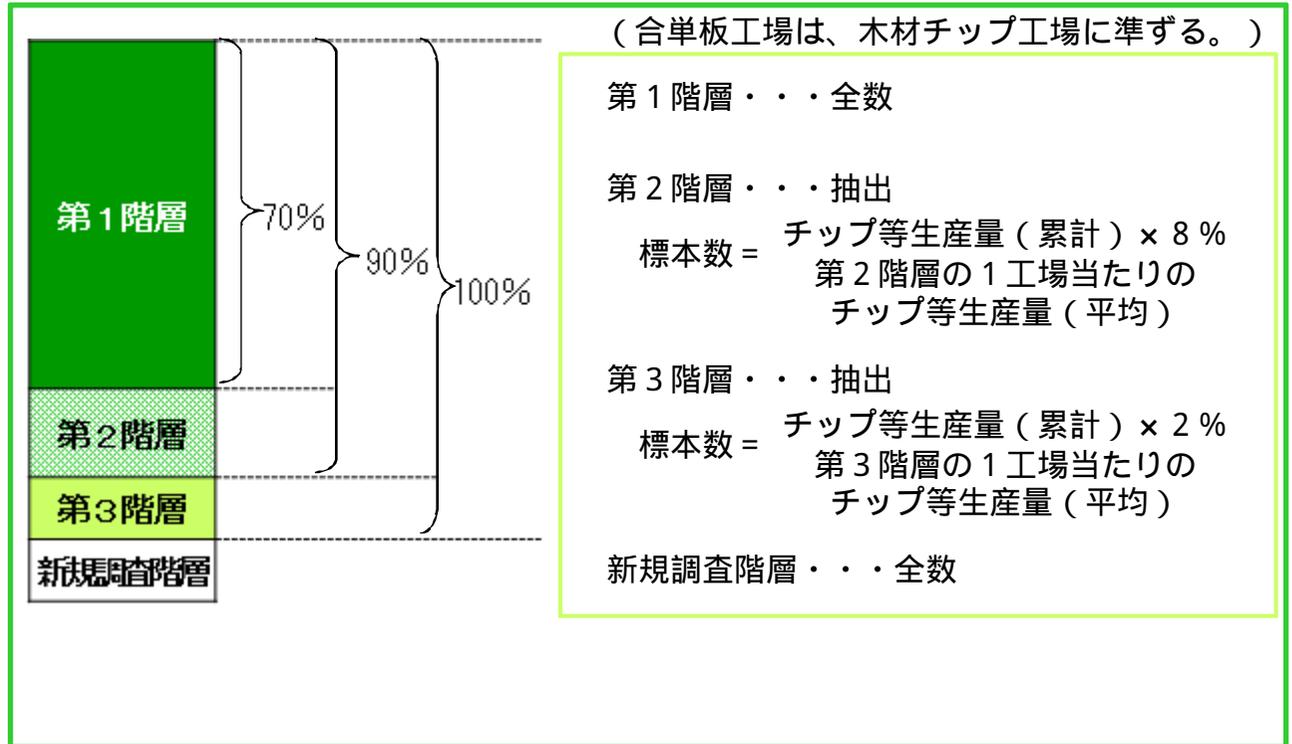
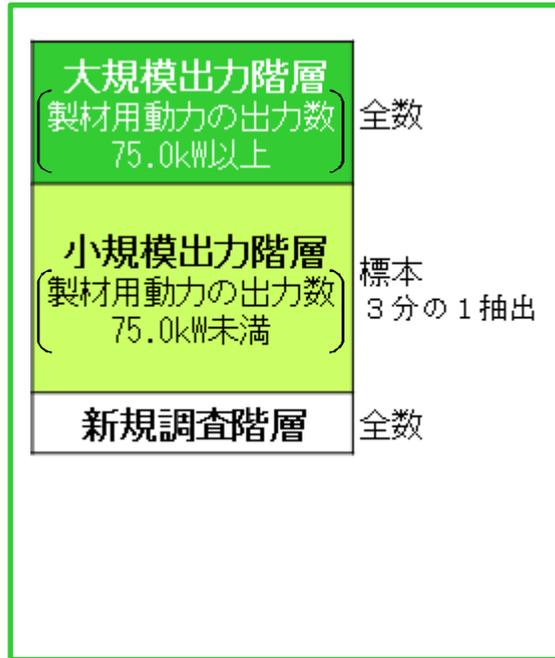
- ・ 現在は、オンライン回答を希望する工場のみでIDを発行しているが、今後は全ての調査対象工場にIDを発行し、オンライン回答を積極的に勧める。
- ・ 調査員に対して、パソコンの設定・操作方法の指導を徹底する。
- ・ 調査対象に対して、オンラインシステムの安全性を説明する。

# ( 参考 1 ) 標本の抽出

## < 基礎調査 >

・ 製材工場

・ 木材チップ工場・合単板工場



## < 月別調査 >

・ 製材月別調査

都道府県別に素材消費量で目標精度10%を達するように標本数を抽出

・ 合単板月別調査

都道府県別に素材入荷量又は合板生産量の多い順に並べ、85%を上回るまでの工場を抽出

## ( 参考 2 ) 集成材とは

日本農林規格 ( JAS ) における「集成材」の定義

ひき板、小角材等とその繊維方向を互いにほぼ平行にして、  
厚さ、幅及び長さの方向に集成接着をした一般材

構造物の内部造作 ( 階段材、壁面材等 ) や構造用集成材 ( 木造住宅の柱、梁、  
桁等や大型木造施設 ) として用いられている。

